

違和感から考えた交通ルールの必要性

三次市立十日市中学校 二年 森岡 杏菜

「すみませんね。」

朝の見守りボランティアの方の一言に横断歩道を渡った私は思わず違和感を感じました。
私の住む地域では、毎朝、通学時に地域の方が見守りボランティアとして横断歩道に立って旗を振ってくれます。爽やかなボランティアの方のあいさつに私は毎朝、元気をもらっています。

交通量の多い朝の道路では、運転者も通勤時間に遅れまいと急いでいるのか、なかなか車を停止してくれません。歩行者優先とはいえ、実際には車優先となっているのが現実です。

ある時、私がいつも通り通学し、ボランティアの方とあいさつをしていると、突然、ボランティアの方の明るい笑顔が苦笑いへと変わりました。そして、「すみませんね。」と私が横断するのを待っていた車の運転者に言ったのです。私も即座に運転者に頭を下げました。そして、頭を上げると私の目に入ったのは、すごく不機嫌な顔をした運転者の姿でした。何も悪い事をしていないにも関わらず怒られた時と同じ気持ちになりました。同時にボランティアの方の気の毒さ、運転者に対する恐怖と怒りを感じました。

信号の無い横断歩道で停止し、歩行者を優先すること。これは、運転者にとって難しいことなのでしょう。しかし、これは法律で定められているルールです。

何気無く自分の思いを優先させた運転が歩行者の命を奪うことは少なくありません。命が奪われているのです。こんなことで大切な人の命を奪われるなんて悲しいと思いませんか。私が家族や友達を奪われたら、腹が立って仕方無いと思います。

そんな事故の発生を防ぐために交通ルールがあり、運転者も歩行者も互いに守り合うことで安全で安心して過ごせる社会を築けると思います。

横断歩道のことに限らず、まだまだ交通事故は身近なところで発生しています。私は、歩行者として安全を守る責任をもって過ごしたいです。みなさんは何のために交通ル

ールがあり、どう向き合っていきたいですか。交通事故ゼロは一人一人が意識すること
で、そう遠くはありません。